

## 再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課: 道路局 国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

事業名	地域高規格道路 <small>なかつひた</small> 中津日田道路 一般国道212号 <small>ひたやまくに</small> 日田山国道路	事業区分	一般国道	事業主体	大分県
起終点	自:大分県中津市山国町守実 至:大分県日田市大字三和			延長	8.8km
事業概要					
当道路は、大分自動車道と東九州自動車道及び重点港湾中津港を連結する地域高規格道路中津日田道路の一部を担う延長8.8kmのバイパス事業である。中津・日田地域の連携を強化し、地域産業の活性化や、災害時の救援活動や代替路としての機能確保等を目的としている。					
H27年度事業化		都市計画決定無し		R1年度用地着手	
R2年度工事着手					
全体事業費	約497億円	事業進捗率	約 62 %	供用済延長	- km
計画交通量	13,300 台/日				
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)
	1.2		177/480億円		553 /553億円
	(参考) 2.0 [2%]	4.6 %	事業費: 169/ 472億円		走行時間短縮便益: 469/469億円
	2.7 [1%]		維持管理費: 8.2/ 8.2億円		走行経費減少便益: 63/ 63億円
	(残事業) 3.1	(残事業)	更新費: 0/ 0億円		交通事故減少便益: 21/ 21億円
(参考) 5.0 [2%]	10.1 %	感度分析	(事業全体)		(残事業)
6.4 [1%]		交通量	B/C=1.04~1.3(±10%)		交通量 B/C=2.8~3.4(±10%)
		事業費	B/C=1.1~1.2(±10%)		事業費 B/C=2.9~3.5(±10%)
		事業期間	B/C=1.1~1.3(±20%)		事業期間 B/C=2.9~3.4(±20%)
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害や冬期における事故等の通行障害を回避するリダンダンシーの確保</li> <li>・北部九州に集積する自動車産業をはじめとする産業・物流の支援強化</li> <li>・耶馬溪・山国地域における広域救急医療体制の強化</li> <li>・日田や耶馬溪を周遊する広域観光ルートの形成によるツーリズムの推進に資する道路である。</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日田山国道路は地域産業の活性化や災害時の代替路機能の確保など重要な役割を果たすことが期待されており、沿線自治体で構成される「中津日田間地域高規格道路整備促進期成会」から、本事業の早期完成の要望活動が行われている。</li> </ul>					
事業評価監視委員会の意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業継続を妥当と認める。</li> </ul>					

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・突発湧水により増加した濁水については、濁水処理施設の増設をおこなうなど、環境の保全に配慮。

事業の進捗状況、残事業の内容等

事業進捗率 約62%、用地進捗率 約60%

現在までに藤山(5号)トンネル、1号トンネル避難坑が貫通しており、引き続き施工中の1号トンネル本坑の工事を進めるとともに、残る2号～4号トンネル工事の早期着手に努める。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・残る用地の取得を継続するとともに、引き続き早期完了を目指し残るトンネル工事等を推進していく。

施設の構造や工法の変更等

・建設発生土の事業内流用やトンネル工事のコスト縮減等、総コストの縮減に努めていく。

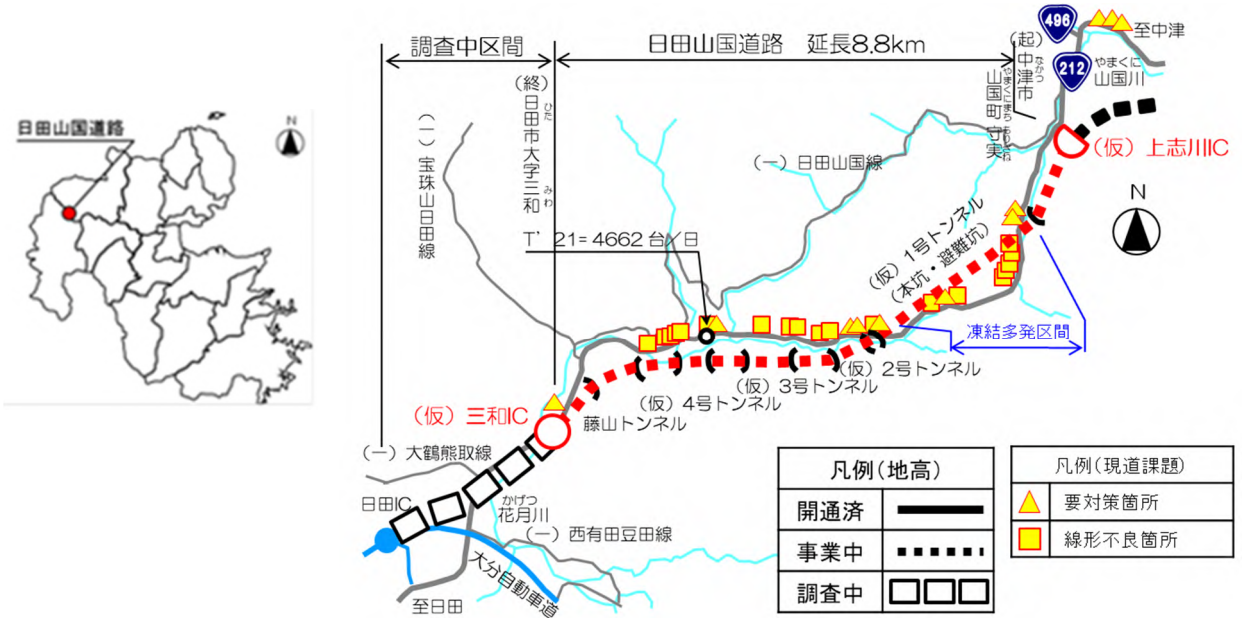
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

・事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したものの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)